

国内・初!

日本の感染症関連情報をわかりやすく提示する 公式サイト



都道府県別の薬剤耐性(AMR) 最新データを視覚化 『薬剤耐性(AMR) ワンヘルスプラットフォーム』を 2019年10月7日(月)公開

国立国際医療研究センター病院 AMR臨床リファレンスセンター(厚生労働省委託事業)は、世界的に脅威となっている薬剤耐性(AMR)対策の取り組みのひとつとして、新ウェブサイト『薬剤耐性(AMR)ワンヘルスプラットフォーム』を2019年10月7日から公開いたします。

抗菌薬は人の医療に対してだけでなく、ペット、家畜などの獣医療、畜産、水産、農業、また、土壌・河川などの環境や食品などに使用されています。さらに、耐性菌は私たちを取り巻くさまざまなものから伝播する可能性があります。「ワンヘルス(One Health)」とは、人の健康だけでなく、動物、環境が同じように健康であることが大切であるという考え方です。

新ウェブサイト『薬剤耐性(AMR)ワンヘルスプラットフォーム』では、ワンヘルスの観点から、ヒト・動物・環境分野における薬剤耐性菌の耐性率・抗菌薬(抗生物質)使用量などのデータを集約し、分野別、都道府県別、経年別に集計した情報をグラフィカルに表示することができます。利用者が必要とする情報を自由に選択し、地図やグラフで視覚的にわかりやすく見ることができるので、他地域との比較や前年との増減の比較などが容易です。

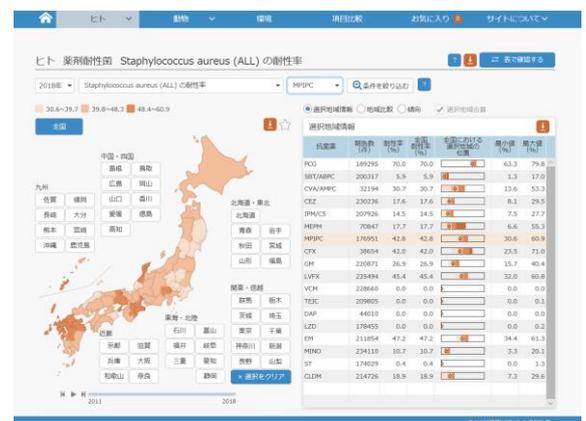
このように感染症に関する横断的に詳細なデータを、利用者が自由に抽出できるウェブサイトの開設は、国内では初めてとなります。地域別、経年の状況の把握や比較検討が容易となり、日本全国をベンチマークとして各地域における薬剤耐性(AMR)対策の課題発見や、対策立案・検討のための一助として活用いただくことを目的としています。

概要

名称 ● 「薬剤耐性(AMR)ワンヘルスプラットフォーム」
公開日 ● 2019年10月7日
アクセス先 ● <https://amr-onehealth-platform.ncgm.go.jp/>
主な利用者 ● 行政官、医療関係者、研究者、畜産・水産業関係者、
農業関係者、ほか一般
※閲覧制限はありません。どなたでもご覧いただけます。

主なデータ●

- 【ヒト分野】 ヒト耐性菌・医療関連感染症/ヒト感染症/
抗菌薬使用量、結核薬剤耐性、淋菌、サルモネラ、
カンピロバクター
- 【動物分野】 動物耐性菌・抗菌薬使用量(病畜、健康家畜、と畜場、
養殖水産、愛玩動物)、抗菌性飼料添加物、農薬
- 【環境分野】 河川薬剤、河川耐性菌



薬剤耐性(AMR)ワンヘルスプラットフォーム

<https://amr-onehealth-platform.ncgm.go.jp/>



AMRワンヘルスプラットフォーム

[ホーム](#)
[ヒト](#)
[動物](#)
[環境](#)
[項目比較](#)
[お気に入り](#)
[サイトについて](#)

新着情報

2019年03月05日 薬剤耐性ワンヘルスプラットフォームシステムをテスト用に公開しました。

関連情報

One Health



AMRワンヘルスプラットフォームとは

WHOのアクションプラン(2015)では、世界的な薬剤耐性(AMR)の問題に取り組むために、ヒト医療の分野のみならず獣医療、畜水産、農業、食品衛生、環境などの分野も含めたワンヘルスアプローチの観点からAMR対策を推進することの重要性が示されている。我が国の「AMR対策アクションプラン2016-2020」においても、ワンヘルスアプローチの観点からAMR対策を推進することが方針として掲げられている。

本プラットフォームは、本邦においてワンヘルスアプローチに基づくAMR対策を推進するため、AMR対策に関連した、各分野における指標の動向を把握し総括的に提示することを目的として設置されたものであり、各分野における薬剤耐性菌の検出状況や抗微生物薬使用量だけでなく、AMR対策に影響を及ぼしうる、公衆衛生学的に重要な病原微生物の検出や予防への取り組み状況、AMRに対する意識調査等の既存のサーベイランスデータや研究データなどのうち、全国を代表するものも取り上げている。

本プラットフォームには我が国の施策の有効性の評価と今後の施策の検討に用いられるだけでなく、各分野の方々に利用され、多分野間の連携・協力を促進することが期待されている。加えて、本プラットフォームがAMR対策に関する研究の促進等に寄与することも期待される。

本プラットフォームがワンヘルスアプローチに基づくAMR対策の推進の一助となれば幸いです。

©AMR臨床リファレンスセンター



例1) ヒトの薬剤耐性菌(*Staphylococcus aureus*)の耐性率を地域と傾向で表示した場合、全国の状況を視覚的に確認できると共に、選択した都道府県と全国データを比較できます。



例2) ヒト抗菌薬使用量を地域横断的に表示した場合、全国の状況を視覚的に確認できると共に、全国や他県のデータと比較することができます。

例の他にも、ヒト分野の感染症や予防接種・意識調査、動物の薬剤耐性率や抗菌薬使用量を経年比較することができます。特にヒト分野は、年齢層別も可能な情報もあります。

AMR対策の重要性 — 抗菌薬を正しく服用しないと、本当に必要な時に効かないかもしれません —

抗菌薬(抗生物質)は細菌が増えるのを抑えたり、殺したりする薬です。しかし、細菌もさまざまな手段を使って生き延びようとします。本来ならば効くはずの薬が効かなくなるとを、「**薬剤耐性(AMR: Antimicrobial Resistance)**」といいます。

抗菌薬を使うと、抗菌薬の効く細菌はいなくなり、効かない細菌が生き残ります。生き残った細菌は体内で増殖したり、人、動物、食品や環境を通じて広がる場合があります。抗菌薬の不適切な使用はこれを助長します。

かぜなどの抗菌薬が効かない感染症には使わず、本当に必要な時に限って使うことが大切です。また、人と同様に動物、環境に対しても不必要な抗菌薬の使用を抑えることが求められています。

医療関係者や専門家だけでなく、私たちひとりひとりがこの問題を知り、意識して行動することが大切です。

薬剤耐性(AMR)情報サイト

AMRかしく [検索](#)

<http://amr.ncgm.go.jp/>

